総合周産期母子医療センター（小児科部門）

1. スタッフ（2019年4月1日現在）

部長（准教授） 矢田ゆかり
 （教授） 河野 由美
 医員（助教） 鈴木 由芽
 下澤 弘憲
 相楽 昌志
 シニアレジデント 6名 小児科と兼務。

2. 新生児集中治療部の特徴

栃木県総合周産期センター二施設のうちのひとつとして、県で出生するハイリスク新生児を二分する形で診療している。入院する新生児の疾患は、超低出生体重児から先天異常、外科疾患など多岐にわたる。

・認定施設

日本周産期・新生児医学会基幹認定施設

・認定医

日本小児科学会認定指導医 矢田ゆかり
 日本小児科学会専門医 矢田ゆかり 他4名
 日本周産期新生児医学会（新生児）専門医
 矢田ゆかり 他2名
 日本周産期新生児医学会（新生児）指導医
 矢田ゆかり

3. 実績・クリニカルインディケータ

1) 年間入院患者数

418名（再転科・転入6名を除く）。院内出生366名（初診時から外来観察72名、母体搬送33名、母体外来紹介272名、妊婦健診未受診1名）、院外出生41名（病院等からの搬送39名、自宅分娩1名、車中分娩1名）。

2) 人工呼吸器管理数・率（気管挿管したもののみ）

137例／418例（32.8%）。

3) 生存率・死亡数など

出生体重（BW）別、在胎週数（GA）別入院数および死亡数を示す（妊婦健診未受診妊婦からの出生児1名は臨床所見から37週以上に加えた）。

GA (W)	入院	生存	死亡	生存率(%)
22	3	1	2	33.3
23	5	3	2	60.0
24	1	1	0	100.0
25	3	3	0	100.0
26	3	2	1	66.7
27	1	1	0	100.0

28	2	2	0	100.0
29	3	2	1	66.7
30	6	6	0	100.0
31	9	9	0	100.0
32	18	18	0	100.0
33	15	15	0	100.0
34	23	22	1	95.7
35	35	34	1	97.1
36	38	38	0	100.0
37以上	253	251	2	99.2
計	418	408	10	97.6

BW (g)	入院	生存	死亡	生存率(%)
<500	4	2	2	50.0
<1000	14	11	3	78.6
<1500	25	24	1	96.0
<2000	60	59	1	98.3
<2500	100	98	2	98.0
≥2500	215	214	1	99.5
計	418	408	10	97.6

4) 死亡症例内訳

在胎43週	18トリソミー、心室中隔欠損、食道閉鎖、上気道狭窄など
在胎22週	超低出生体重児、呼吸窮迫症候群、肺出血
在胎22週	超低出生体重児、重症新生児仮死
在胎35週	空腸閉鎖、胆汁うっ滞、足趾欠損
在胎37週	先天性横隔膜ヘルニア、肺低形成、新生児遷延性肺高血圧症
在胎23週	超低出生体重児、双胎第1子、呼吸窮迫症候群、敗血症
在胎23週	超低出生体重児、双胎第2子、新生児気胸、敗血症疑い
在胎26週	超低出生体重児、新生児気胸、敗血症
在胎34週	胸水貯留に伴う肺低形成
在胎29週	長期破水に伴う肺低形成

5) 先天性心疾患児入院例

有意な血行動態異常を呈する中等症・重症例18例。転院4例（治療目的の転院1名、状態安定後の転院3名）、PICU転科6例、NICUから退院7例、NICU入院中死亡1例。

6) 多胎入院数

102名（24.4%）。

7) 外科症例数（手術例のみ）

小児外科16例、眼科3例。

8) 他院への搬送

15例。13例は状態安定後に搬送元等の病院に転院。

2例は治療目的に転院。

4. 2019年の目標・事業計画等

総合周産期母子医療センターとして、産科部門との連携を一層充実させ、より重症な症例に対応する。また県内の総合周産期センターである獨協医大、および関連の地域周産期センターと協力・連携しながら、栃木県、北関東地域の周産期医療の充実を図る。さらに周産期・新生児医学会認定施設として、専門医の育成に力を注ぐ。